

邑楽町総合教育会議議事録

開催日時：令和4年3月28日（月）午前9時30分開始 午前10時10分終了

開催場所：邑楽町役場3階大会議室

協議事項：（1）令和3年度邑楽町教育行政の成果と課題について

（2）令和4年度に向けて

（3）その他

出席者：金子正一町長、藤江利久教育長、岡田真幸教育長職務代理者、谷津洋子教育委員、中村郷志教育委員、橋本明香教育委員、関口春彦総務課長、中繁正浩学校教育課長、田中敏明生涯学習課長、久保田裕子ども支援課長、大芦純学校教育課長補佐

議事録	
藤江教育長	ただ今から、邑楽町総合教育会議を開会いたします。よろしくお願いいたします。 はじめに、金子町長よりごあいさつを申し上げます。
金子町長	本日は教育委員の皆様には、総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。この総合教育会議は市町村長が招集することになっており、平成27年に始まり、間もなく7年が経過するところでございます。この総合教育会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律において、「地方公共団体の長は、大綱の策定に関する協議及び次に掲げる事項についての協議並びにこれらに関する次項各号に掲げる構成員の事務の調整を行うため、総合教育会議を設けるものとする。」と規定されています。この中で「次に掲げる事項」というのは、「1. 教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策」、「児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置」とされています。さて、学校においては、児童生徒には一人一台端末が導入され、教室には電子黒板を整備し授業を進めております。指導する先生方のスキル向上もお願いしたいと思っております。また、新型コロナウイルス感染症につきましては、子どもたちの罹患率も増えてきております。今後も注意を払いながら、子どもたちが安心・安全に教育が受けられ、素晴らしい子どもたちに育ってほしいと思っております。また、町の文化振興につきましては、中央公民館の邑の森ホールを町民の皆さんにご活用いただいております。文化活動が積極的に進められております。本日の会議ですが、「令和3年度邑楽町教育行政の成果と課題について」、そして、「令和4年度に向けて」となっております。学校教育課と生涯学習課、そして子ども支援課から、今年度の成果と課題、そして来年度に向けての説明を受けることになっておりますのでよろしくお願いいたします。
藤江教育長	ありがとうございました。会議の進行につきましては、町長が議長となり、進めさせていただきます。町長、よろしくお願いいたします。
金子町長	それでは、ここからは私が議長となり進めさせていただきます。 協議を始める前に、運営要綱第8条第3項に基づく教育委員の議事録署名人についてですが、本日の会議の議事録署名人を中村教育委員にお願いしたいと思います。

議事録

大芦学校教育課長補佐

す。中村教育委員よりしくお願いいたします。  
協議に入ります。令和 3 年度 邑楽町教育行政の成果と課題について及び令和 4 年度に向けてを一括して、学校教育課、生涯学習課、子ども支援課からそれぞれ説明をお願いします。まずは、学校教育課関係について、説明をお願いします。

令和 3 年度の取組について説明させていただきます。今年度の「邑楽町教育行政方針」では、6 つの目標を掲げて教育行政を推進してまいりました。その中の 1 つの目標である「おうら生き生きプランを実現する学校教育の推進」について、成果と課題を説明させていただきます。まず、専門性を生かした教科指導の充実と ICT を活用した「主体的・対話的で深い学び」への授業改善についてですが、「小中連携や小小連携の推進及び小学校教科担任制の充実」と「ICT を活用した「主体的・対話的で深い学び」への授業改善」について説明いたします。始めに、「小中連携、小小連携の推進及び小学校教科担任制の充実」についてです。小学校教科担任制を推進し、高学年を中心に国語、算数、理科、外国語、音楽、体育など教員の専門性を生かした系統的な授業を実施しました。それにより、小学校教員の教材研究に当てる時間を減らすことができ、教員の多忙感の軽減につながりました。また、子どもたちが様々な先生方と授業をすることで、学習意欲が高まり、学ぶ楽しさを感じることができました。課題としては、それぞれの学校の行事の関係で授業の日程調整や打合せ、子どもの成績処理などの情報共有のための時間の確保が難しいという点です。次に、「ICT を活用した「主体的・対話的で深い学び」への授業改善」についてです。デジタル教科書や ICT の有効活用により、視覚的にわかりやすい授業づくりに取り組むことができました。また、Meet(ミー)等の活用により、小学校同士や小中学校間で相互交流の授業を実施することができ、互いに学び合うことができました。課題は、ICT の活用率が教員によって違うため、次年度は 4 月より県の活用スキル系統表に則り、計画的に子どもたちに指導するようにすることです。続いて、教育研究所各研究班の研究内容の充実と教職員研修の充実についてです。今年度は、2 班とも会議の回数を減らし教員の負担感の軽減を図りました。また、紀要の作成を見直し、教職員に対して公務支援システムを活用して研究内容を周知しました。では、2 つの研究班の成果と課題についてお伝えいたします。はじめに、特別活動推進研究班についてです。今年度、新たに子どもたちの実態から必要性を感じ、設置した研究班になります。よりよい人間関係づくりや合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにするために、学級会をテーマに研究と実践を積み重ね、各校で充実した特別活動の授業に改善することができました。今後の課題としては、小中 9 年間を見通した話合いのスキルを具体化することです。次に、ICT 活用研究班についてです。ICT 班は、3 年目の取組となりました。今年度は、教員が ICT を活用した授業改善を進められるよう、「はばたく群馬の指導プランⅡ (ICT 活用 Version)」を参考にしながら、公開授業を行いました。子どもたちの学びが主体的、対話的になるための ICT の有効的な活用法について 6 校で共通理解を図ることができました。今後の課題は、子ども達も教員も学習支援ソフトの使い方を覚えることに時間がかかるため、スキル向上のための時間の確保が必要だということです。最後に、令和 4 年度に向けてですが、1 つは、ICT を活用し

議事録

	<p>た教科指導の充実を図ります。邑楽町は他市町より ICT 環境が充実しており、邑楽町を希望する教員も多いため、授業力があり、資質能力の高い教員が集まれば授業改善や学力向上につなげることができます。来年度は、ICT を活用してトンガとの授業交流も計画しております。2 つ目は、教育研究所の研究内容の充実と教職員研修の充実についてです。子どもたちのよりよい人間関係づくりの構築と自己有用感の育成をめざして、いじめや不登校の未然防止につながる研究、研修を実施いたします。以上が、今年度の学校教育の成果と課題になります。</p>
金子町長	<p>続きまして、生涯学習課関係について説明をお願いします。</p>
田中生涯学習課長	<p>令和 3 年度生涯学習の目標と成果、課題についてご説明申し上げます。はじめに「1 町の未来を創造する、心豊かな生涯学習社会づくり」についてでございます。令和 3 年度も新型コロナウイルスの影響で、生涯学習課の多くの事業が中止や延期に追い込まれました。また、施設の貸出休止や利用制限もあり、多くの関係者が疲弊する状況となりました。その一方で、日常的な感染防止対策が定着したほか、ワクチンの接種も進み、コロナと共存しながら社会活動を行うことが追求されてきました。また、ホストタウン及び共生社会ホストタウンに登録されたトンガ王国との交流事業を実施し、邑楽町とトンガ王国との新たな歴史がスタートしました。次に「2 地域に根を生やした、たくましい青少年の育成」についてでございます。青少年に関する事業も、コロナの影響でその多くが中止または延期に追い込まれました。そんな中でも、多くの子どもたちがトンガ王国との文化交流に参加しました。また、成人式典は、昨年度と同様感染防止対策を徹底し、式典を短時間にするなど運営を工夫して実施。本年度も好評のうちに開催することができました。コロナ禍の中でも青少推の皆さんによる春・夏・冬のパトロールなど、青少年を犯罪から守る取組が行われました。今後も当面はコロナとの共存が必須になるため、感染防止対策を徹底しながら、どのように青少年育成活動を行うのか、具体的な方法を追求する必要があります。次に「3 町民に生きがいと潤いを与える芸術・文化の振興」についてでございます。「外来魚駆除大作戦」と「指定文化財展」は新型コロナウイルスの影響で中止になりました。一方で、本年度も町内の文化財を動画で紹介する「おうちで町の文化財」を配信。また、昨年度内容を更新した文化財パンフレット「邑楽町の文化財」を公共施設に配布するなど、文化財の普及・啓発に努めました。芸術文化活動は、今年度もコロナの影響で中止や延期が相次ぎましたが、町では昨年度に引き続き、町内で開催を予定していた公演等について「芸術文化事業持続化給付金」を交付することで、公演等の主催者を支援してきました。次に「4 町民の健康と明るい生活に寄与する生涯スポーツの推進」についてでございます。本年度も各種のスポーツ教室や、スポーツ推進委員による出前講座などを計画していましたが、新型コロナウイルスの影響でその多くが中止または延期となりました。また、町民体育祭をはじめ、町体育協会主催の各種大会はほとんどが中止。施設の貸出休止や利用制限、スポーツ少年団の活動自粛など、自主的なスポーツ活動にも大きな制約を強いられました。そんな中、スポーツに親しめる環境の整備として、スポーツ・レクリエーション広場の照明設備改修工事などを実施しました。今後はコロ</p>

議事録

ナ禍を、全ての事業について見直す機会とし、コロナとの共存、そしてコロナ収束後を見据えて再構築することが必要になります。令和4年度はコロナとの共存と、コロナ収束後を見据えた事業の計画と実施を前提に、中央公民館と地区公民館の連携をさらに進め、すべての町民が輝く町をつくるための学習機会の提供と、町が目指す「共生社会」を実現するための生涯学習の推進に向け、生涯学習課一丸となって取り組んで参ります。

金子町長

続きまして、子ども支援課関係について、説明をお願いします。

久保田子ども支援課長

子ども支援課は、平成26年度に行政改革の一環として新たに設置された課でございます。これまでの教育委員会の所管であった幼稚園と福祉課の所管であった保育園がともに子ども支援課の所管となりました。新たな課の設置と同時に子ども支援課に幼児教育指導員を配置し、これまで庁内職員研修により職員の幼児教育・保育への意識及び資質の向上に努めてきております。職員研修も毎年年間計画を立て、園訪問指導や職位別研修をすることにより、意識の向上や職位によるそれぞれの役割や園経営などへ結びつくような研修を実施しています。なかなか表に出ない地道な事業ですが、長年の幼児教育指導員の努力により、現在の幼稚園、保育園、こども園という3形態が適正に運営されていることが成果のあらわれと私は思っております。それでは、どのような職員研修が実施されているかといいますと、5つの職位別研修と職員による相互参観や小学校との連携会議があります。また、園長会議、保育園自己評価、保護者アンケート、経営要覧の作成など、幼児教育指導員が中心となって推進をしています。園内研修推進委員会は月1回開催しており、保育者としての専門性を高め指導力の向上を図るため、各園より研修員を推薦し、研修員が事例を持ち寄っての事例研修や絵本などの読み聞かせの実践など取り入れながら、子どもがより楽しく主体的に取り組めるような遊びや活動などのあり方など幅広い研修を実施しました。保育実践研究につきましては、毎年とりまとめ、研究紀要を作成しています。園長研修会は、効率的な園経営及び諸課題の解決を図るために年2回開催しており、テーマを設定し、テーマに寄り添った資料を持ち寄り協議を実施してきました。副園長・主任研修会は、園長の補佐及び園の効率的な運営を図るため、園長研修会同様に年2回開催でテーマを設定し、テーマに沿った資料を持ち寄り協議を実施してきました。新任（若手）研修につきましては、保育者としての心構え、保育内容、接遇、服務規律等の基礎的な資質の向上を図るため、年3回開催し、それぞれテーマを設定し、テーマに沿った内容についての講義及び協議を実施しました。会計年度任用職員研修は、保育者としての使命感や指導力の向上を図るため、年3回開催、テーマを設定し、テーマに沿った内容についての講義及び協議を実施しました。こちらの研修は3年前より開始しました。幼稚園・保育園・こども園職員による相互参観は、保育を互いに参観することで、保育に対する理解を深め、保育士としての資質の向上を図るものです。例年2回実施しており、昨年度はコロナ感染予防対策上1回の実施となりましたが、本年度は2回実施いたしました。他の園を参観することにより参考となることも多いようです。園長会議は、月1回開催しており、幼児教育指導員、課長、児童支援係長、各町立園長で諸課題等を共有

## 議事録

し、協議など行い、町立園の統一性を図るようにもしています。幼稚園・保育園・こども園・小学校連携推進会議は、管内幼稚園、保育園、こども園、小学校が互いに連携・推進を図ることにより、幼児教育と小学校教育の円滑な推進を図るものです。5月に小学校の授業参観、2月に幼稚園、保育園、こども園の保育参観を実施しました。お互い小学校に上がる前の子どもの様子、小学校に入学後の子どもの様子を知ることができ、回を重ねるごとに相互理解が深まっているようです。そのほか、園自己評価や保護者アンケートにより、改善につなげられるよう努めております。経営要覧については、以前学校施設である幼稚園で作成していましたが、福祉施設である保育園でも同様に作成し、教育方針、保育方針、目標を掲げ、子どもの発達支援に努めています。特別支援については、配慮を要する子どもたちに対して、適切な支援が出来るよう、相談支援専門員、学校教育課指導主事、幼児教育指導員の三者で情報交換を行いながら実施してきましたが、本年度は各園長に参加を求め、より具体的な状況を把握し、支援につなげられるようにしました。また、就学児については、小学校でも継続的な指導が出来るよう校長会を通して、小学校や特別教育指導員と連携を図ることが出来ました。以上のように、職員研修などをおして資質の向上に努めております。次に子育て支援に関する令和3年度の新規事業についてでございますが、新規事業としましては、国の新型コロナ対策費に関するもので、新規事業1つ目の低所得者の子育て世帯に対する生活支援特別給付金事業は、18歳未満の児童を養育する父母で、令和3年度住民税が非課税の方を対象に、児童1人につき一律5万円を支給しました。次の子育て世帯への臨時特別給付金事業は、国の「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」においての給付金事業で、令和3年12月から実施されたものです。0歳児から高校3年生世代までの子どもたちに1人あたり10万円を支給しました。国では、支給の対象において、所得制限を設けていますが、当町においては、所得制限を撤廃しての支給を行いました。そのほかの継続事業につきましては、前年度と同様でございます。令和4年度は、令和3年度の各種事業を継続して実施し、子育て世帯の経済的負担軽減等を図りながら、子育て支援をしていきます。教育・保育については、質の向上を図るため、職員の各種研修への参加や幼児教育指導員を中心とした庁内での園長研修、副園長・主任研修など、また、幼稚園・保育園・こども園研修推進委員会や幼稚園・保育園・こども園・小学校連携推進会議を実施していきます。幼児教育指導員の定期的訪問の他に、園からの要請を受け個別訪問をして要請者の保育参観をし、成果及び課題の解決策を探ることで更なる質の向上に取り組んでいきます。近年の就労世帯の増加や幼児教育・保育無償化による利用料が無償になったことも相まって、幼稚園の利用者が減少し、町内公立保育園やこども園の利用者が増加している状況にあります。今後、就学前児童及び就学児童の人数の推移見込みや各種事業の利用見込みなどからの子ども・子育て支援事業計画に基づき、様々なニーズに対応できるよう支援体制の充実や見直し等を図っていきます。継続事業の中の出産祝金については、現金給付をしてきましたが、令和4年度より、給付金の一部を町内事業所（店舗など）で使用できる電子地域通貨コハクペイにて支給し、子育て支援と町内の商業振興を図っていきます。子ども支援課の事業成果等につきましては以上です。

議事録

金子町長	各課からの説明が終わりましたが、ご意見やご質問はございますか。
岡田委員	幼稚園の園児数はどのくらい少なくなっていますか。
久保田子ども支援課長	現在の園児数は、長柄幼稚園が約 40 人、中野幼稚園が約 60 人ですが、5 歳児が卒園すると長柄幼稚園が約 30 人、中野幼稚園が約 50 人となります。以前は、年少、年中、年長とそれぞれ 2 クラスずつあり、多いときで中野幼稚園では 300 人くらいいる時代もあったと記憶しています。現在は就労世帯も増え、保育希望が増えております。
岡田委員	共働きが 6 割くらいまで増えてきていることや幼児教育無償化が影響しているのですか。
久保田子ども支援課長	岡田委員のおっしゃったとおり、かなりの世帯で共働きになってきています。なおかつ、幼児教育無償化により 3 歳以上の保育料的な部分が無料になりました。以前は、幼稚園は月 5 千円くらいの利用料でした。また、保育園は所得に応じた保育料になっていましたが、無償化により所得を考えずに働けるようになったと思われま。
金子町長	保護者の方の就労状況も変わってきていますので、園の運営形態についても今後見直しができるようお願いしています。
関口総務課長	ICT を活用した授業改善について、Meet 等の活用により、学校間での授業における相互交流を実施したとありますが、この Meet とはどのようなことができるものですか。
大芦学校教育課長補佐	Zoom と同様のものです。今年度は、長柄小学校と邑楽南中学校において、英語の授業で交流を行いました。小学校 5 年生の学習で、中学生の一日の流れについて画面に向かって中学生に質問をして、中学生が画面に向かって答えるというやりとりをオンラインで行いました。また、長柄小学校と高島小学校において、それぞれの学校自慢ということで授業交流を行いました。
橋本委員	先生方の ICT のスキルについてですが、得意な先生と紙ベースで授業を進めている先生とがいるようですが、スキルの差を補うための研修を行うことになっているのですか。
大芦学校教育課長補佐	校内研修を学校ごとに月に 1~2 回行っています。今年度は試行錯誤のなかで行ってきました。県からも ICT の活用について参考となるものが示されていますので、計画的にどのように ICT を活用していくのか、また書くことも大事ですので、こういった場面で紙を使うのか、先生方の研修を通して目安となるものを作っていきたいと考えています。

議事録

岡田委員	子どもたちのパソコンを家に持ち帰っている割合は多いのですか。
大芦学校教育課長補佐	日常的にパソコンを持ち帰り宿題をしています。コロナ禍なので、急に長い期間学校に来ることができない場合があります。そこで授業がストップしてしまうのは保護者としても非常に心配だということで、要望により学校の授業をオンラインで見られるように配信もしています。
岡田委員	授業は撮ったものですか、リアルタイムですか。
大芦学校教育課長補佐	リアルタイムで先生が授業をしている様子を家で見られるようにしています。子ども同士やりとりも学校にいる子どもたちと家にいる子どもとでしています。学校の様子を家でも感じることができるので、学びをストップさせないという良さがあります。
岡田委員	ノートに書く割合は減ってきているのですか。
大芦学校教育課長補佐	そうでもないです。授業のなかで書くこととパソコンを使うことの使い分けが大事になってきます。パソコンの有効性というものもありますが、書いてそれを伝えることの大切さは大事にしていかなければならないことだと思います。
金子町長	ほかにございますか。ないようですので、次に、その他ということで委員の皆さんから何かございますか。ないようですので、これで協議事項は全て終了しました。これで議長を終わらせていただきます。
藤江教育長	以上をもちまして、邑楽町総合教育会議を閉会いたします。